

# 2023年度 第2四半期決算について

2023年11月21日  
古河電池株式会社

# Contents

01

23年度 第2四半期決算概要

02

23年度 業績予想

03

トピックス

01

## 23年度 第2四半期決算概要

# 23年度 第2四半期決算 ポイント (4-9月)

## 事業環境 (日本)

- 鉛価格が高く推移 (22年度上期\* 34.2万円/t⇒ 23年度上期 36.8万円/t)
- 自動車・産業分野は、想定を上回る部材を含む原材料価格の高騰。
- 自動車分野は、半導体不足の緩和により新車向けが回復。
- 2023年4月～9月 四輪自動車生産台数：418万6066台 (前年同期比17%増)

※上期：4～9月

## 事業環境 (海外)

### 連結期間は2023年1～6月。

#### タイ

- 新車向けは、半導体不足の緩和により数量増加。補修向けは、市場全体でスローダウン。
- コスト面では、エネルギーコストの高騰が継続。
- 2023年1～6月 四輪自動車生産台数92万1512台 (前年同期比6%増)

#### インド ネシア

- 新車向けは、適用車種の生産台数増加により数量増加。
- コスト面では、原材料価格・エネルギーコストの高騰が継続。
- 2023年1～6月 四輪自動車生産台数70万2150台 (前年同期比6%増)

# 23年度 第2四半期業績サマリー

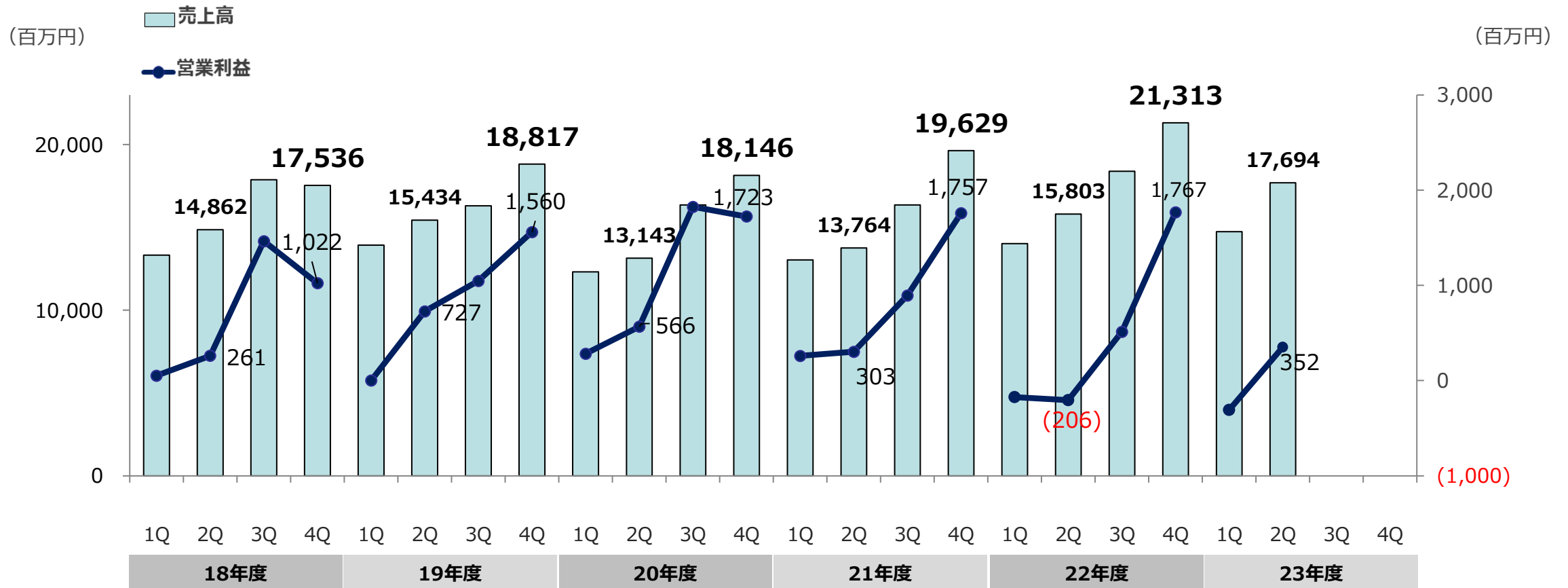
■ 売上高・営業利益ともに海外拠点が堅調に推移したことにより**増収増益**。

(単位：百万円)	22年度 (4-9月)	23年度 (4-9月)	前年差 (増減)	前年比	23年度業績予想 (5/11)
売上高	29,830	32,430	2,600	109%	73,000
営業利益 対売上高比率	△381 -	42 0.1%	423	-	2,400
経常利益 対売上高比率	△231 -	164 0.5%	395	-	2,500
親会社株主に帰属する 当期純利益 対売上高比率	△228 -	594 1.8%	822	-	2,200
海外売上高 海外売上高比率	11,975 40.1%	13,434 41.4%	1,459	-	-
フリー・キャッシュ・フロー	△2,956	△1,829	1,127	-	-

鉛建値（平均）：22年度上期 34.2万円/t ⇒ 23年度上期 36.8万円/t

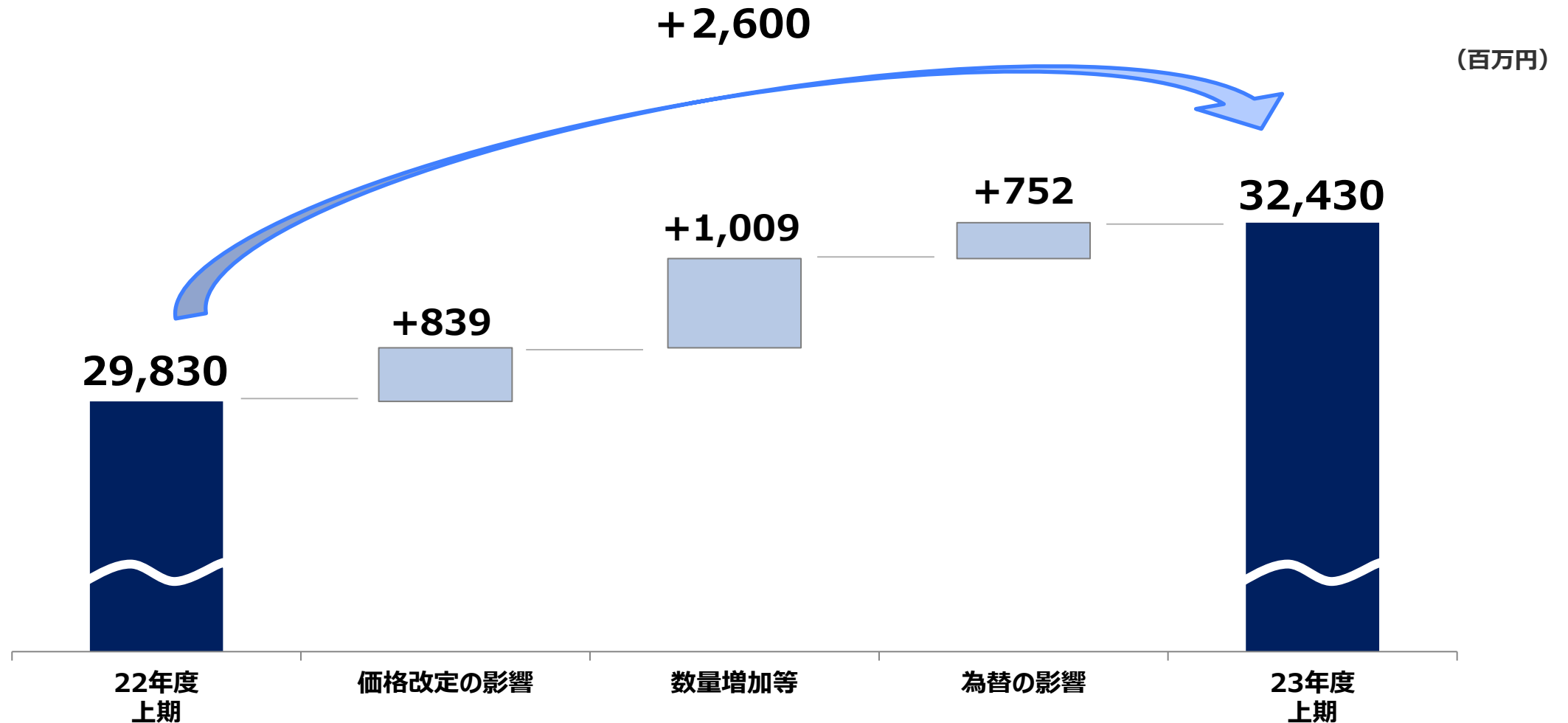
# 売上高・営業利益の推移\_四半期

■ 海外拠点が堅調に推移したことや国内自動車事業・産業事業の価格改定により**増収増益**。



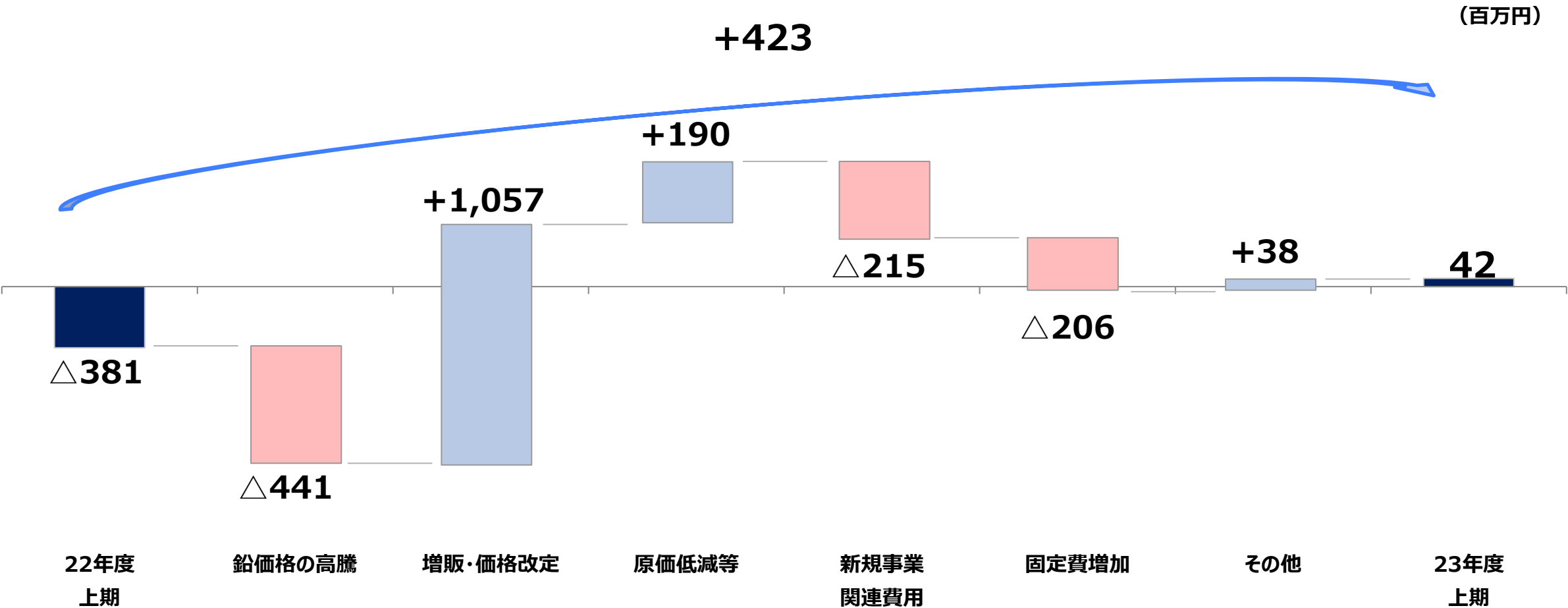
# 連結売上高 増減分析

■ 売上高は、原材料価格・エネルギーコスト増加分の価格改定効果や新車向け数量および産業分野での数量増加に加えて、海外拠点の為替影響がプラスに寄与したことにより**増収**



# 連結営業利益 増減分析

■ 営業利益は、昨年度から継続して実施してきた価格改定の効果等により**増益**。



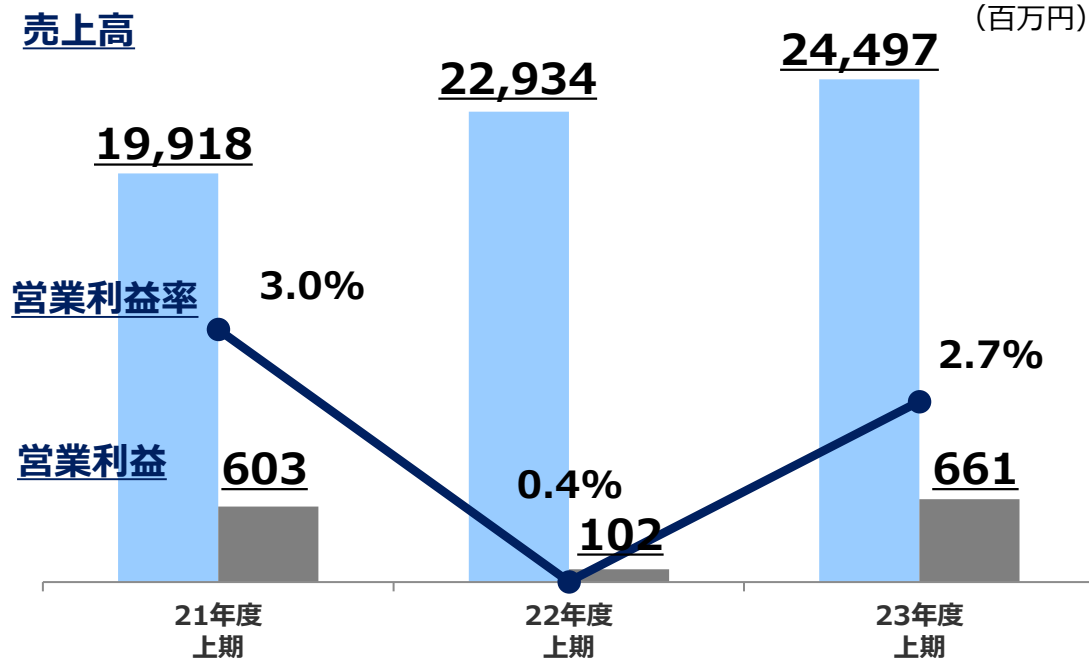


# 自動車セグメント 決算概況 (4-9月)

## 自動車 セグメント

日本国内・海外ともに半導体不足の影響が緩和したことにより新車数量増加。一方で、補修向けは前年比で減少。鉛価格の高騰やエネルギーコスト増加分の価格改定の効果により**増収増益**。

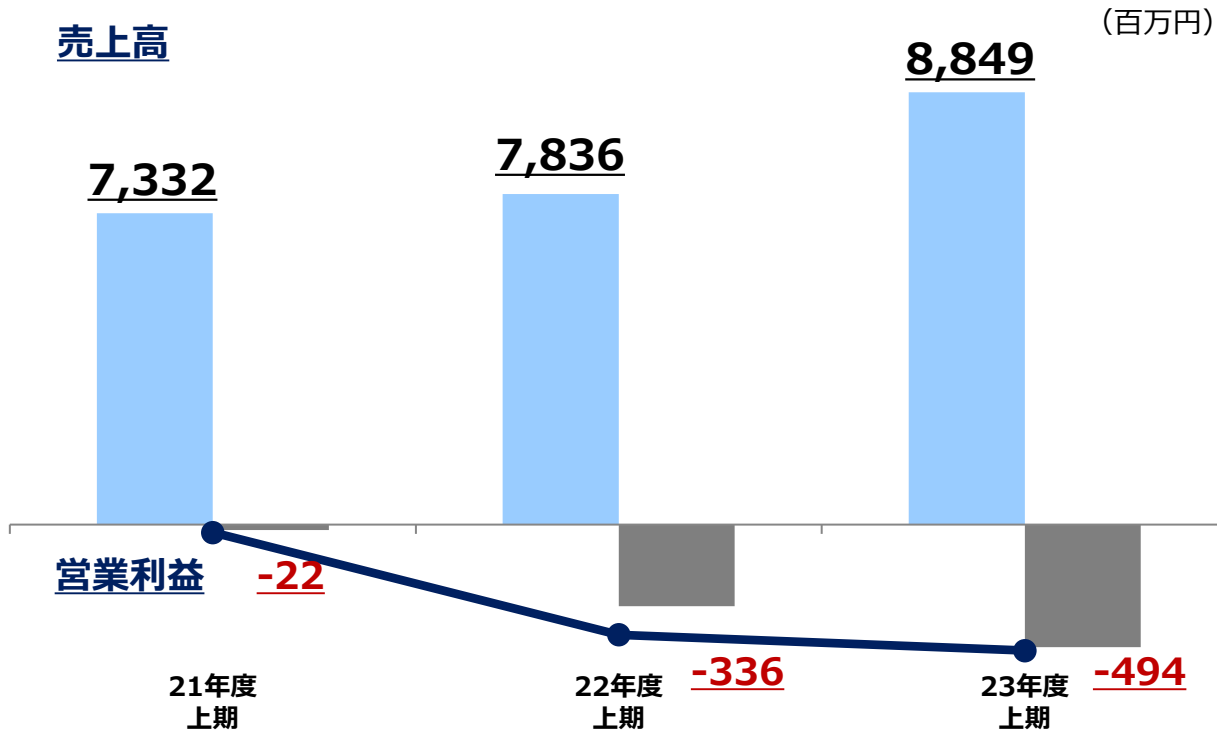
売上高 :	24,497百万円	前年比	107% (1,563百万円増)
営業利益 :	661百万円	前年比	648% (559百万円増)



- **日本 :**  
半導体不足の緩和により新車向け数量増加。補修向けは新車需要の回復により数量減少。想定を上回る原材料価格の上昇があるも、**増収増益**。
- **タイSFC :**  
前年同期比で新車向け数量は増加したが補修向け数量は減少。原材料調達コストの削減により**増収増益**。
- **インドネシアFIBM :**  
前年同期比で新車向け数量は増加したが補修向け数量は減少。価格改定や原価低減活動により**増収増益**。

# 産業セグメント 決算概況 (4-9月)

<b>産業 セグメント</b>	日本国内需要は前年並みに推移し、海外を含む鉄道向けが堅調に推移したことにより <b>増収</b> 。原材料価格の高騰やエネルギーコストの増加により <b>減益</b> 。			
	売上高 :	8,849百万円	前年比	113% (1,013百万円増)
	営業利益 :	△494百万円	前年比	158百万円減



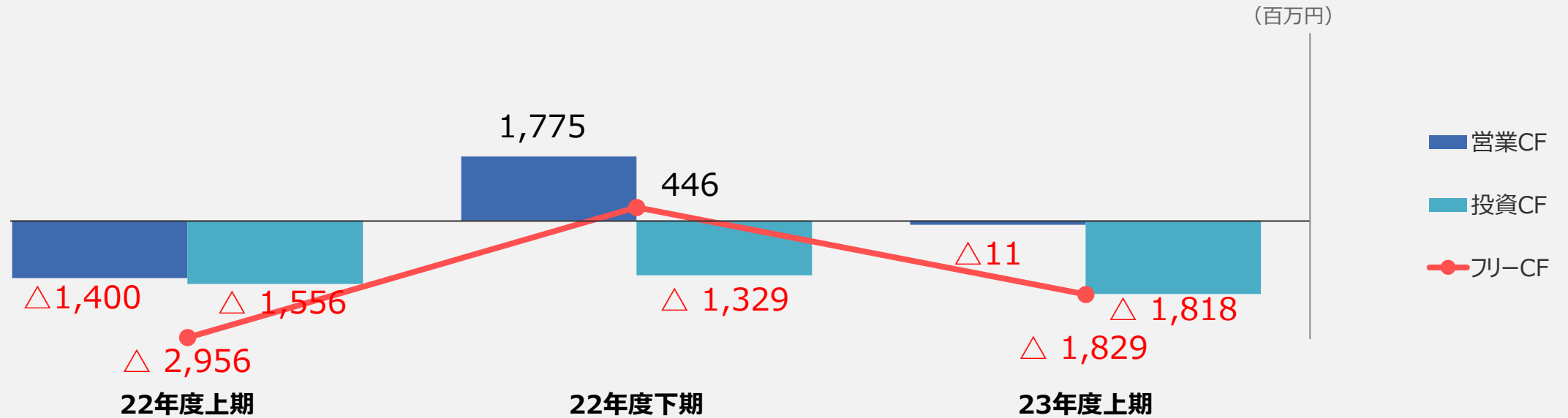
- 鉛蓄電池および電源装置の需要は前年並みに推移。
- アルカリ電池は海外を含む鉄道向けの需要が回復したことにより増収。
- 価格改定活動を進めるが、想定を上回る部材価格の高騰により収益性が悪化。
- データセンター市場については、拡大基調が継続。

# 連結貸借対照表（23年3月末 / 23年9月末）

- 需要期に向けた製品在庫の積み増し等により、たな卸資産は32億円増加。
- 受取手形および売掛金等は、回収が進んだことにより28億円減少。

資産	23.3 末	23.9 末	増減額	負債・純資産	23.3 末	23.9 末	増減額
<b>流動資産</b>	34,669	35,047	378	<b>流動負債</b>	17,318	19,449	2,130
現金及び預金等	8,226	8,149	△77	支払手形及び買掛金等	8,064	7,722	△342
受取手形及び売掛金等	14,833	11,987	△2,846	短期借入金	4,189	6,944	2,755
たな卸資産	10,364	13,610	3,246	その他流動負債	5,065	4,783	△282
その他流動資産	1,246	1,301	55	<b>固定負債</b>	11,012	8,877	△2,134
<b>固定資産</b>	28,609	29,321	711	長期借入金	1,800	1,450	△350
有形固定資産	23,891	24,789	898	その他長期負債	9,212	7,427	△1,785
無形固定資産	1,007	960	△47	<b>純資産</b>	34,947	36,041	1,094
投資その他の資産等	3,710	3,570	△139	利益剰余金	29,133	29,105	△28
<b>資産合計</b>	63,278	64,368	1,090	その他	5,814	6,936	1,122
				<b>負債純資産合計</b>	63,278	64,368	1,090

# 連結キャッシュフローの状況



## 営業CF・投資CF

■ 営業CF	(△11)
・ 税金等調整前当期純利益の増加	(+1,024)
・ 売上債権の減少	(+3,019)
・ たな卸資産の増加	(△3,042)
・ 退職給付制度改定に伴う拠出額	(△931)
■ 投資CF	(△1,818)
・ 有形固定資産の取得による支出	(△1,772)
・ 無形固定資産の取得による支出	(△62)

## ポイント

- 当期純利益の増加に対して、退職給付制度改定に伴う拠出額やたな卸資産の増加により、フリーキャッシュフローは△1,829百万円



## 23年度 業績予想

# 23年度 業績予想

■ 鉛価格高騰によるコスト増を見込むも、価格改定・コスト削減等の取り組みにより通期業績予想に変更なし。

(百万円)

	22年度			23年度			前年差 (年間)	前年比 (年間)
	上期	下期	通期	上期実績	下期予想	通期予想		
売上高	29,830	39,708	69,538	32,430	40,570	73,000	3,462	105%
営業利益	△381	2,281	1,900	42	2,358	2,400	500	126%
経常利益	△231	2,424	2,193	164	2,336	2,500	307	114%
親会社株主に帰属 する当期純利益	△228	1,026	797	594	1,606	2,200	1,403	276%
海外売上高比率	40.1	32.1	35.6	41.4	-	-	-	-

為替レート

・2023年3月期 (期末) 1パーツ=3.80円 100インドネシアルピア=0.85円  
 ・2024年3月期 (前提) 1パーツ=3.70円 100インドネシアルピア=0.83円

鉛建値

・2023年3月期 (期末) 346.6千円/t  
 ・2024年3月期 (前提) 333.0千円/t

# 配当予想\_2023年5月公表値から変更なし

- 23年度の配当金は、22年度から2円増配の1株当たり21円。配当性向は31.3%。
- 事業の成長性と財務健全性の最適バランスを追求し、中長期的に安定した配当を実現。

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
ROE (%)	9.4	8.7	12.8	12.2	2.4	-
1株当たり配当金 (円)	11	13	22	22	19	21
配当金総額 (百万円)	360	426	721	721	622	688
配当性向 (%)	15.9	19.0	19.9	18.8	78.1	31.3

03

## トピックス



# トピックス バイポーラ型鉛蓄電池の取組み

## 実証実験を通じて製品化に向けた改良を実施中



### 【バイポーラ型鉛蓄電池を活用した実証実験】

- 2023年4月より、関電工・古河電工・古河電池の3社でバイポーラ型鉛蓄電池の性能確認試験を開始



バイポーラ型鉛蓄電池

#### 評価項目

【特性】【動作状況】【安全性】  
【保守メンテナンス性】

### 【当初スケジュールに対する状況】

項目	当初スケジュール	2023年11月状況
サンプル出荷	2021年度中	出荷済 パートナーと継続評価中
製品出荷	2022年度中	製品化に向けて改良実施中（当初計画から遅れが発生）
中期経営目標	2025年度	変更なし 売上目標：30億円

# トピックス 2023年度上期の取り組み

ESG/SDGs

新規事業

製品情報

ESG/SDGs

製品情報

- 古河電池、「2023ワールドトライアスロン横浜大会」に横浜サポーターとして協賛(2023/5/18) a
- 古河電池、関電工、古河電工と、バイポーラ型鉛蓄電池の性能確認試験を開始 (2023/5/30) b
- 古河電池、アミューズワンセルフ製国産ドローン「GLOW.L」に当社製リチウムイオン電池が搭載(2023/6/13) c
- 古河電池、秋田県大潟村で開催のワールド・エコノ・ムーブ2023 (WEM)、ワールド・グリーン・チャレンジ2023 (WGC) に協賛(2023/8/23)
- 古河電池、小型月着陸実証機 (SLIM) に当社製リチウムイオン電池が搭載～月面の実証探査計画に貢献～ (2023 /9/07) d

※日付はリリースの発行日

a



ワールドトライアスロン  
当社ボランティア協賛

b



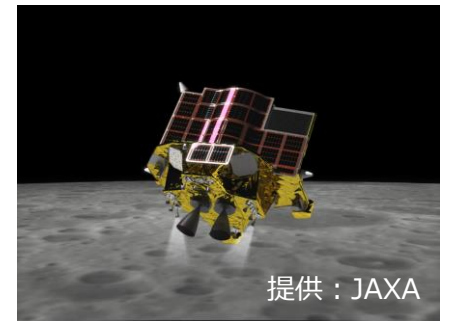
バイポーラ型鉛蓄電池  
実証実験開始

c



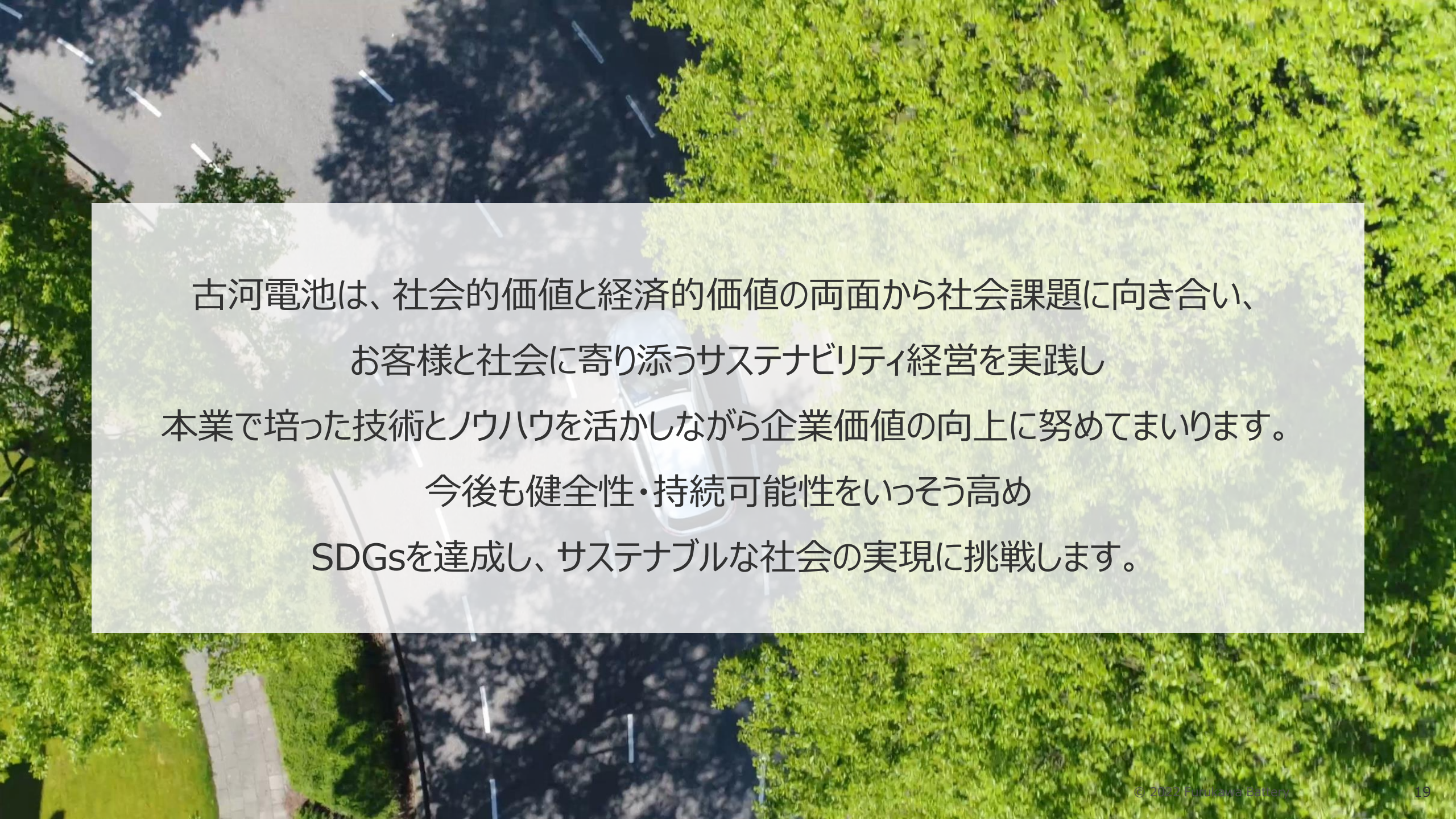
ドローン用リチウムイオン電池  
12Sラミネート形

d



小型月着陸実証機 (SLIM)  
当社リチウムイオン電池搭載

提供：JAXA

An aerial photograph of a road with a white car driving on it. The road is flanked by lush green trees. The image is used as a background for a text overlay.

古河電池は、社会的価値と経済的価値の両面から社会課題に向き合い、  
お客様と社会に寄り添うサステナビリティ経営を実践し  
本業で培った技術とノウハウを活かしながら企業価値の向上に努めてまいります。  
今後も健全性・持続可能性をいっそう高め  
SDGsを達成し、サステナブルな社会の実現に挑戦します。

# 将来情報についての注意事項

本資料における当社および当社グループの今後の計画、見通し、戦略等の将来情報に関する記述は、当社が現時点で入手可能な情報から合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、実際の業績等の結果は、想定と大きく異なる可能性があります。これら将来情報に関する記述には、多様なリスクや不確実性が内在しており、主要なものとして以下が挙げられますが、これらに限られるものではありません。

- ・為替相場の変動による影響
- ・主要製品に使用される原材料の価格変動
- ・海外における政治的および社会的リスク
- ・取引先の業績悪化等
- ・大規模災害（地震や風水害などの自然災害、伝染病・感染症の流行）等の影響

なお、本資料に含まれる記述は、有価証券の募集を構成するものではありません。

（注）当社の連結財務諸表作成に関する会計基準は「日本会計基準」を採用しています。  
年度表記について、21年度は2022年3月期、22年度は2023年3月期（以下同様）を表しています。